

研究実施のお知らせ

研究課題名：心臓血管手術後患者の再挿管を防ぐための当院における取り組み

研究期間：倫理審査委員会承認後～2025年12月31日

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

2015年6月～2018年6月までに、当院心臓血管外科で心臓血管手術を受けられた方

【研究の目的と意義】

心臓血管手術後は人工呼吸器を着けたままICUに入室します。翌日以降に状態に応じて人工呼吸器を外しますが、不十分な計画のもと不適切な時期に人工呼吸器を外すと、再度気管挿管をして人工呼吸器管理が必要になることがあります（再挿管）。心臓血管外科症例において再挿管は、死亡率を高めることが知られています。

当院では、人工呼吸器を外す前に入念な評価と準備を行っていることもあって、これまで再挿管を要した心臓血管手術症例はありません。そこで、当院で心臓血管手術が始まってから現在までの症例のデータを検討し、どの取り組みが再挿管ゼロに貢献しているのかを調査します。また、そのデータをもとにどのような方がNPPV（高い圧で呼吸を補助するマスク）などを必要とするのかも調査し、その導入基準を設定します。そうすることでより明確な基準で人工呼吸器を外し、NPPVへの切り替えが必要かどうかを判断できるようになり、予後をさらに良くすることができる可能性があります。

【研究の方法】

当院の過去の診療録から必要なデータを抽出し、統計学的に検討します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報（原疾患、術式、検査データ等）を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【研究の実施体制】

この研究は、当院における単施設研究です。

研究代表者：

仙台市立病院 麻酔科 入間田 大介

【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご

心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 麻酔科

医員 入間田 大介（当院の研究責任者）

または 医長 安藤 幸吉

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話：022-308-7111（代表）